

佳作

## 改めて気づけたこと

群馬県 東京農業大学第二高等学校中等部三年 萩原 香乃

中学校最後の大会中に怪我をした私は整形外科に  
来ていた。

「膝にある前十字靭帯という靭帯が切れていますね。  
このままにしておくとな大人になった時に大変にな  
るから、手術をした方がいいと思います。」

そう聞いた時、私は驚きと恐怖、不安で頭が真っ  
白になった。今まで捻挫よりも大きな怪我をしたこ  
とがなかった私に、手術という単語は無縁だと思っ  
ていたのだ。怪我をしてすぐだったため、手術につ  
いては簡単な説明だけだったが、それでも全身麻酔  
をして骨に穴を開けて金属を入れて……など自分  
は想像もつかないような内容がどんどん出てきて、  
思考が追いつかなかった。その日は家に帰っても手  
術のことで頭がいっぱいだった。

怪我をした後初めての学校で、担任の先生に怪我  
のことを話した。すると、

怖い。」

と相談してみた。すると、

「確かに怖いかもしれないけど、手術してくれるの  
はちゃんとしたお医者さんだから大丈夫。手術後  
はちゃんと動けるようになるだろうし頑張っ  
て。」

「入院中暇でしょ？ おもしろ動画いっぱい送って  
おくからね。」

と緊張をほぐしてくれたり、手術の前後や入院期間中  
にもラインで気遣ってくれたりした。友達の励まし  
言葉があつて私は今も術後のリハビリを頑張っている。

膝の怪我を通して、こうやって寄り添ってくれる  
人たちが多くいることに、私は改めて気づくことが  
できた。今まで通り当たり前の生活を送っていた時  
には気づけなかったような人の優しさに改めて触れ  
ることができた。怪我をしてしまったことは少し残  
念ではあるが、それよりも自分が周りの人に恵まれ  
ていること、いい友達を持っていることに気づくこ  
とができたし、今では怪我をして良かったこともあ  
るかも、と少し前向きに考えられている。

「自分も靭帯切っちゃったことがあるんだけど、痛  
かったでしょ？ これから生活とかもしづら  
いと思うから、自分の方からクラスのみんなに相談し  
て席を変えてもらうこともできるけどどうす  
る？」

と言ってくれた。みんなも快く許可してくれて、私  
の席はロッカーの近くにさせてもらえた。また、

「自分が靭帯を切っちゃった時はこの病院にお世  
話になってただけけど、手術の先生もリハビリの  
先生も良かったからこだわりがないなら、この病  
院がおすすめだよ。」

と言って病院も紹介してくれた。担任の先生がこの  
先生で良かったなと思った。

仲のいい友達は、

「靭帯って切ったらめっちゃ痛いやつでしょ?? 大  
丈夫なの？」

と言って移動教室の時に荷物を持ってくれたり、い  
つもならはしゃぎながら歩く廊下も私の歩く速度に  
合わせて歩いてくれた。朝や放課後の登下校の際に  
は、駐車場までの短い距離でも、転んだら心配だか  
らと付き添ってくれた。そんなある日、私は友達に、  
「全身麻酔ってどんな感じなのかな。自分が寝てる  
うちに体の中が変わってるってことだよね。手術